

水晶が好きだった宮沢賢治(2)

京都薬科大学 名誉教授 桜井 弘

2. 多結晶クオーツ

多結晶の石英には、半透明または不透明の微小な結晶が多数集合して形成されたものが多く、個々の結晶は肉眼では見えないほどの大きさの粒子潜晶質と言われています。カルセドニー(玉髄)、アゲート(瑪瑙)、ジャスパー(碧玉)などが知られています。

A. カルセドニー(玉髄)(写真3)

カルセドニーはロウのような光沢があり、色は、青や白、淡黄褐色、黄褐色、緑、赤、灰、黒、黄、茶などをしています。カルセドニーの名前は、現在のトルコのイスタンブール近くの古代ビテュニア王国の港「カルセドン」で発見された地名に由来すると言われています。賢治は、カルセドニーと玉髄の両方の呼び名で作品を書いています。



写真3. 玉髄(カルセドニー)
(<https://en.wikipedia.org/wiki/Chalcedony>)

玉髄の かけらひろへど 山裾の 紺におびえてためらふころ

『短歌』236 大正四年四月より

賢治が19歳のころの短歌です。もっと鉱物採集をしたいけれど、もうタ暮れとなり、どうしようかと悩んでいる心を表わしています。

ひときれそらにうかぶ暁のモチーフ

電線と恐ろしい玉髄キヤルセドニーの雲のきれ

そこから見当のつかない 大きな青い星がうかぶ

『春と修羅』『風景とオルゴール』

この農園のすもものかきねはいっぱいに青じろい花をつけています。

雲は光^{ぎよくすい}って立派^{おきもの}な玉髓^{めぐ}の置物です。四方の空を繞ります。

『チュウリップの幻術』

杏^{ぎよくすい}やすももの白い花が咲き、次では木立も草地もまっ青になり、もはや玉髓^{めぐ}の雲の

峯^{めぐ}が、四方の空を繞る頃となりました。

『雁の童子』

これらの作品では、空に浮かぶ雲を玉髓で表わしています。一方、植物のカラマツのまだ青い芽を緑玉髓(クリソプレーズ)で、次のように表わしました。緑玉髓の緑色は微量のニッケルによると考えられています。

から松^{クリソプレーズ}の芽の緑玉髓

かけて行く雲^{しやしゅ}のこつちの射手は

またもつたいらしく銃を構へる

『春と修羅』小岩井農場 パート七

B. アゲート(瑪瑙、メノウ)(写真4)

メノウの化学組成は二酸化ケイ素で、タマネギのように同心状に縞が成長したユニークな模様をしているので、よくご覧のことでしょう。平行に縞がついたもの、カーテンのように縞が成長したものなど、様々なメノウが知られています。メノウの英語名のアゲートは、イタリアの先端にあるシチリア島のアカーテ(Acate)という川のほとりで見つけられたことに由来しているそうです。

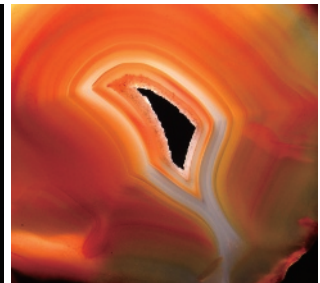


写真4. メノウ(瑪瑙、アゲート)
(両者ともドイツ産、筆者撮影)

まったく野原のその辺は小さな瑪瑙^{めのう}のかけらのやうなものでできてゐて行くものの

足を切るのですた。

『ひかりの素足』

日は光は琥珀の波。新らしく置かれたみねの雪。赤々燃える谷のいろ。黄葉をふ
るはす^{しら}白樺^{かば}の木。苔^{モッサアゲート}瑪瑙。『柳沢』

苔瑪瑙(こけめのう)は緑や白、茶色をして苔のように見える鉱物で、賢治は初冬の風景をこの鉱物で表わそうとしたようです。

C. ジャスパー(碧玉)(写真5)

碧玉は細かな石英の結晶が集まってできた鉱物です。玉髄やメノウと同じ種類ですが、それらより不純物を多く含んでいるとされています。英語名のジャスパーは「斑点のある石」を意味する古代フランス語jaspre、ラテン語jaspidem、ギリシャ語jaspisに由来すると言われています。すでに水晶の項で紹介した賢治の作品をもう一度挙げます。



写真5. 緑碧玉(green jasper) (科学館展示より)

たうやくの葉は^{へきぎよく}碧玉、そのつぼみは^{アメシスト}紫水晶の美しいさきを持ってゐました。

ここでは、植物の葉を緑碧玉で表わしています。また、他の作品でも緑碧玉が使われています。

その時丁度風が来ましたのでうめばちせうはからだを少し曲げてパリりとダイヤモンドの露をこぼしました。露はちくちくとおしまひの青光をあげ碧玉の葉の底に沈んで
行きました。『十力の金剛石』^{じふりき}

ウメバチソウ(梅鉢草)はバイカソウ(梅花草)とも言われ、名前の通り花が梅の花をしています。(続く)

[引用文献は、最終回の最後にまとめて記載いたします。]

桜井 弘